



## 総務文教委員会先進地行政視察報告書

期 日 平成 30 年 10 月 15 日（月）～17 日（水）【2泊3日】

調 査 市 岡山県 奈義町（10月15日訪問）  
岡山県 津山市（10月16日訪問）  
山口県 周南市（10月17日訪問）

出張者 委員長 松崎 幹夫 ・ 副委員長 中村 敏彦  
委員 田中和 矢 ・ 委員 大六野 一美  
委員 濱田 尚 ・ 委員 中里 純人  
委員 東 育代 ・ 委員 竹之内 勉  
随員 神 蘭 正 樹

【当 局】政策課長補佐 出水 喜三彦

◎上記のことについて、次のとおり報告いたします。

今回の先進地行政視察では、平成 26 年に合計特殊出生率 2.81 を達成し、平成 29 年は 2.39 と平成 26 年には及ばないものの、全国平均の 1.44（平成 28 年）に対し高水準を保っている岡山県奈義町、「仕事・移住支援室」を設置し、「市街地での便利なまち暮らしと郊外でののどかな田舎暮らし」などを売りに移住・定住対策に取り組んでいる岡山県津山市、地域課題が多様化する中山間地域の課題解決に向け地域の将来計画「夢プラン」を中心とした自主的・主体的取組を支援している山口県周南市の 3 市を調査した。

### 【奈義町】 調査事項：出生率の増加について

奈義町は、県北東部に位置し鳥取県と境を接する町である。中国山地に位置し、大半が山林で、南部は日本原高原と呼ばれる高原となっており、陸上自衛隊日本原駐屯地と日本原演習場がある。平成 14 年に合併の是非を問う住民投票を行い「単独町制」を決定し、平成 24 年度には、子どもたちが夢と希望を持ち、健やかに育てる環境づくりを目指して「子育て応援宣言」を行っている。

### ○住宅施策

- ・分譲団地に新築住宅普及促進事業補助金  
（町内新築 20 万円、地元業者施工 20 万円、県産材利用 10 万円）
- ・元気交付金、公共空間木質化事業、過疎債を活用し若者向け賃貸住宅（21 戸）、雇用促進住宅を買い取り定住促進住宅（60 戸）を整備

## ○就労の場

- ・ 東山工業団地に 18 社が立地
- ・ まちの人事部（一般社団法人に委託）により、専業主婦など女性のテレワーク（パソコンやインターネットなどを活用して場所や時間にとらわれない働き方）推進のため勉強会等を開催しながら、“しごとコンビニ”として 125 人が登録し、録音データの文字おこしや手書き資料のデータ化、営業リストの作成などを実施

## ○子育て支援

- ・ 町内に高校が無いいため通学費の一部を助成する就学支援金、出産祝金（第 1 子 10 万円、第 2 子 15 万円、第 3 子 20 万円、第 4 子 30 万円、第 5 子以降 40 万円）、医療費助成（高校生まで）、在宅育児支援手当（生後 6 ヶ月から幼稚園入園前まで 1 万円／月）、各種予防接種助成などを実施
- ・ 「なぎチャイルドホーム」 対象者：乳幼児から高齢者  
旧保育園跡を活用し、親子クラブ等の活動の場、乳幼児・園児・児童・高齢者の交流の場（1 日平均 50 人利用）
- ・ 「つどいの広場ちゅくしんぼ」 対象者：0 歳から就園前の乳幼児と保護者  
子育てアドバイザーを配置し、乳幼児をもつ子育て中の親子が集い、親子での交流や子育てについての相談の場
- ・ 「子育てサポートスマイル」 対象者：生後 6 ヶ月から小学校 3 年生まで  
保護者が行事等で家庭保育ができないとき、なぎチャイルドホームまたは子育て援助者の自宅等で一時預かりを行う。（平成 29 年度利用者 101 人）



## 【所 感】

- ・ 「なぎチャイルドホーム」には地域住民がボランティアで関わり、子育ての悩みなどの相談ができ、安心して子育てできる環境づくりができています。
- ・ 「なぎチャイルドホーム」を中心に子育て世代の困りごとや、必要な支援制度等の多くの情報が得やすい拠点施設があり、子育て世代に広く心強さや安心感を与える効果があるように感じました。
- ・ 「切れ目のない子育て支援と出産への不安を無くす精神的サポート」は「すでに子どもを持つ世帯をターゲットにする」。3 子以上の世帯が半数を占め、多子が当たり前の雰囲気づくりにも「なぎチャイルドホーム」の役割は大きいと感じました。
- ・ 合計特殊出生率が平成 25 年の 1.88 から平成 26 年に 2.81 と上がったのは、徹底して子育て世代の要望を受け入れた支援制度の取組の成果であったと思った。

- ・子育て支援施策の全般的な取組として「切れ目のない」と「地域と連携」、そして職員のみではなく「町民一体」という印象を受けた。本市でも若者の定住施策や就労対策、切れ目のない子育て支援など、行政と市民、地域が一丸となった取組が必要であると強く感じた。
- ・本市においても子どもがいつでも集まる場所の整備や子育て世代の経済的負担の軽減策を優先的に取り組むことが重要であると感じた。

## 【津山市】 調査事項：移住・定住について

津山市は、出雲街道の要衝として栄え、津山城跡や昔ながらのまちなみなどの歴史名所が数多く残る城下町で、中国・関西地方のほぼ中央に位置し、津山駅を中心に東西南北に路線が走っており、9つの工業団地に100を超える企業が立地している。また、医療体制も充実し、買い物環境も良く、住みやすいまちである。

### ○仕事・移住支援室

高校卒業年代の人口流出が顕著（18歳の崖）であり、若者の減少が年少人口・生産年齢人口の低下を招く負の連鎖となっていることから、移住・定住策の充実による人の還流促進、「18歳の崖」の克服に向けた高校・高専・大学との連携による活性化と学生の定着促進、出会いの場の創出、結婚の希望をかなえる取組の重点化のため「仕事・移住支援室」を設置し取り組んでいる。

### ○ちょうどいい暮らしやすさ

#### ①便利なまち暮らしとのどかな田舎暮らしの両立

- ・中国・関西地方のほぼ中央に位置し、中国自動車道等により岡山市まで1時間半、大阪まで2時間、米子まで1時間と交通の便がよい
- ・100件を超える病院・医院、24時間365日救急医療に対応する救命救急センターをはじめ医療体制も充実
- ・市街地、ちよっぴり田舎とがつつり田舎の調和

#### ②子育て環境が整っている

- ・25保育園と14幼稚園、4認定子ども園があり、休日保育、病児保育やショートステイ、ファミリーサポートセンターなどの多様な預かりサービスを実施
- ・全ての小学校に児童クラブ、放課後子ども教室20箇所
- ・27小学校、8中学校のほか6高等学校、工業高等専門学校、短大、大学

#### ③仕事がある

- ・製造業や医療福祉分野をはじめとした3,000企業の雇用の場
- ・9工業団地に100を超える企業

## ○「津山ぐらし移住サポートセンター」を庁舎外に開設

- ・IJU コンシェルジュ 2 名、仕事・移住支援室 6 名の 8 人体制での取組
- ・定住ポータルサイト「LIFE 津山」を運営し移住支援制度等の情報発信
- ・「田舎暮らしの本」「TURNS」へのイベント等広告掲載
- ・DM 発信（今までの相談者、岡山県移住希望情報発信希望者）
- ・津山圏域外の方を対象に移住体験ツアーの実施
- ・サポートセンターに併設して津山圏域「無料職業紹介センター」を設置し、仕事の紹介や求人企業への訪問や面接をお手伝い
- ・「お試しぐらし応援事業」（空き家バンクに登録がある賃貸住宅を利用して家賃の半額助成）や「お試し住宅」によるトライアルステイ事業
- ・農業や手仕事産業の体験希望者を募り後継者を探るトライアルワーク事業
- ・IJU ターンカフェ（移住者の交流会）の開催
- ・津山圏域内への就職や創業、就農による転入世帯への家賃補助（1 年間）など総合的な移住・定住施策の取組



### 【所 感】

- ・「津山ぐらし移住サポートセンター」を中心に移住・定住の情報発信や取組がされていた。専門のスタッフを揃えることで、より効果的な運営が出来ているようであった。大都市に近いという利点を活かしての取組であり、お試し住宅など気軽に体験できる施策を提供し成果が出ているようであった。情報発信が重要であると感じた。
- ・仕事を中心に据えた移住・定住策を打ち出している津山市は着眼点が良かった。本市では企業の雇用に補助を出しているが、併せて移住者の雇用に対しても何らかの優遇策・就職促進助成金を考えてもいいのではないかと思った。
- ・津山市には働く場（仕事）があり大きな強みで移住・定住へうまく利用されている。各施策については本市も遜色ないと思うが、担当部署の「仕事・移住支援室」が職員 6 名、委託 2 名体制であり、移住・定住に対する本気度が感じられた。本市も移住・定住専従に人数を割けないかを感じる。

## 【周南市】 調査事項：移住・定住について

周南市は、山口県の東南部に位置し、南に瀬戸内海を臨み、海岸線に沿って主要産業である重化学工業企業が多数立地しており、これに接する形で市街地が形成されている。北側は緑豊かでなだらかな丘陵地と広大な山稜に農山村地帯が散在している。面積の7割を占める中山間地域は、人口の1割強が居住、高齢化率が45.1%、人口減少・空き家の増加など地域課題が多様化している。

### ○住宅の確保

- ・空き家情報バンクの設置  
(平成19年度～ 累計登録98件、利用者登録314件、成約23件)  
固定資産税の納税通知書に「空き家の登録について」のチラシを同封
- ・空き家改修支援：対象は市内に住所を有していない個人および従業員のための住居を整備する法人で賃貸物件に限定→移住支援を明確にし、かつ空き家バンクでも貸し手が改修するのを促進するため、売買ではいずれかが改修するケースが多数

### ○受け入れ態勢の整備

- ・里の案内人制度：地域コミュニティ組織から推薦され、市が開催する養成講座を受講し案内人に  
活動内容：空き家調査と家主交渉、移住相談対応、家主との連絡、移住後の相談など  
移住者が地域コミュニティに溶け込むお手伝いをする  
住民ボランティア  
活動実績：10地区123人、7年間で移住相談359件、空き家掘起67件、移住35世帯66人  
※空き家の把握や移住者のフォローなど、地域ぐるみでの協力・連携が必要
- ・お試し暮らし住宅：地域コミュニティ組織が空き家を借り受け運営  
組織に対し100万円を上限に修繕費や備品購入費等の経費を助成  
7年間で55件利用
- ・移住支援制度：空き家掘起活動支援（1件1万円）  
家財道具処分支援（10/10、上限10万円）  
空き家改修支援（1/2、上限150万円）  
中山間地域起業支援（1/2、上限100万円）

### ○情報発信

- ・しゅうなん地域づくり応援サイト  
「地域づくり」と「移住」を柱にした情報の統合・整理

### ○雇用の創出

- ・サテライトオフィス誘致  
県外に本店所在地を置く法人または個人事業者が空き家・空き店舗等を活用し、中山間地域にサテライトオフィスを開設する際に必要な経費の助成  
(10/10、改修等上限500万円、通信料上限年24万円、家賃上限年120万円)

## ○大道理地区の取組

休校した小学校を改築した「大道理夢求の里交流館」の指定管理者として活動

「地域の夢プラン」のもと、高齢者サロン、便利屋業（高齢者の御用聞き）、

ほたる工房（弁当等の販売（道の駅、地域内））、地域交通、移住者受入活動を実施

- ・空き家の掘り起こしや管理：2件を管理中、借り手が決まれば次の物件を掘り起こし
- ・里の案内人が移住相談、大家との面会、移住後の地域行事参加などサポート
- ・もやい便（軽ワゴンでの地域コミュニティ交通）：車両、運転手賃金等の経費は市1回200円から1,200円で路線バスが通っていない他地区まで運行可能  
月・水・金の朝10時まで予約で1日3～5人利用

## ○徳山駅前賑わい交流施設・徳山駅前図書館

- ・JR徳山駅に併設、3階建。

図書館（学習スペース、キッズライブラリー、ビジネススペース等）、  
蔦屋書店、市民活動支援センター、交流室、スタバほか交流施設

- ・図書館スペースは蔦屋書店に委託し営業、年中無休、9：30から22：00
- ・学習スペースは中高生から社会人までで満員



### 【所感】

- ・大道理地区では弁当の販売や高齢者の手伝い、自宅からスーパーのある隣町への送迎など地域のことは地域で賄っていた。5名の若い移住者も地域に溶け込んで活動していた。地域のやる気をいかに引き出すかが成功の秘訣であると感じた。
- ・コミュニティバスが地域の実情を考慮しながら運用されていることに感心した。本市も路線バスが減便、廃止の方向で進んでいるが、まち協に丸投げでは前に進まないのではないかと感じた。
- ・「里の案内人制度」は地域の空き家に地域で入居者を迎え入れる取組で、行政も移住支援を準備している。本市でも課題である中山間地域の空き家改修費用等を解決している。中山間地域が抱える課題に対する行政の思いを感じた。